

椋川の学校 今・昔

明治5年(1872)の学制発布にもとない、今津町椋川に初めて学校が設置されたのは、明治8年12月のことです。このときの学校は椋川学校と呼ばれ、校舎として椋川内の高雲寺が使用されました。その後、児童数の増加にもとない、明治10年9月に、宇尾条(現在の椋川ミニライズセンター付近)に新校舎が建てられ、名称も国の制度改革に伴い、数年の間に簡易科椋川小学校・三谷第四小学校・椋川尋常小学校と、改称が続きました。ただ、校舎は長年の使用で老朽化が進み、大正時代に入ると荒廃が目につくようになっていきました。

出ました。大正11年(1922)12月、現在の椋川分校敷地に完成した校舎は、鉄筋ブロック銅板ふき耐震耐火構造で、普通教室のほか、特別室・裁縫室・応接室・事務室・図書室・会議室・雨天体操場・水道設備などを備え、この当時としては県下でも他に類を見ないほどの充実したものでした。



▲今津西小学校椋川分校お別れ会(昭和54年撮影)

少年活動の場として利用されています。来年度からは私立通信制高等学校の主にスクーリング会場としての使用が計画されており、分校としての役目をいったん終了したのち、新たな活用がはかれることになっています。(文化財課)

▼高島調理師会が、高島特有の食材を利用した、古代食×ニューを創作。古代の味を再現した「古代ロマン弁当」として誕生しました。11品が竹皮製の箱に詰められたこのお弁当。注目は、牛乳を5時間煮詰めてつくるといふ古代のチーズ「蘇」。当時は天皇や大貴族などしか味わうことができなかったという代物で、その味は絶品。一口食べれば、継体ロマンもふわふわ...。お問い合わせは、商工観光課へ▼マスターズ初の公道を使つてのロードレースが高島市で行われました。今月の表紙は、9月15日(土)、16日(日)に行われた「日本スポーツマスターズ」自転車競技の様子をご紹介します。大会には、35歳から74歳の方がエントリー。年齢により男子6部と女子の部に分かれて約200人が出場。レースでは、色とりどりのユニフォームに身を包まれた選手が集団を成し、大きな形を参入から周回を重ねていきます。駆け引きを繰り返してゴール前、コース一杯に広がった選手たちは、渾身の力をふりしぼってゴールに駆け込みます。そんな懸命な選手の姿は、心の中に感動の風を巻き起こしてくれます。(広報担当)



お口の中にも広がる継体ロマン(「古代ロマン弁当」完成発表会で)

編集後記

気合の一塊が 風になった



特集 2-4 「大災害のない地域」だと思いませんか? 未曾有の大災害「安曇川水害」を教訓に

- 5-6 タウンピックアップ
7 健康生活していますか?
8 みんなで5・7・5
9 市長日記・省エネ長者作戦
10-11 まちなタ写真館
12 びょういんだより
13 教育委員会 information
14 国保年金あらかると
15-17 情報おしらせ版
18 そうだ図書館に行こう♪
19 窓口・納税
20 歴史散歩